

東京交通新聞 2009 年 7 月 6 日 (月)

<感染症対策を検討>

境交通、東旅協の委員会で提起

タク車内の効果的方法

新型インフルエンザなどの感染症をタクシー車内から防止できるか。境交通（東京・三鷹市、根本克己社長は乗務員や乗客を感染症から守るタクシー車内の効果的な除菌方法について検討を始めた。14 日に開かれる東京乗用旅客自動車協会の環境・車両資材委員会で提起、協力への了承が得られれば、2009 年度の三鷹ネットワーク大学・民学産公協働研究事業として、8 月から具体的作業に入る方針だ。

タクシー車内の効果的な除菌方法を確立することにより、安心して利用できる個別公共交通機関としての役割を担えるかを検証するのが目的。東旅協の了承が得られた場合、境交通のほか、数社に実証実験への協力を依頼する考え。

実証実験は協力会社のタクシー車両でサンプリング調査を実施。「タクシー車内が一番汚れた状態で、どのような菌があるのかを調べるとともに、その殺菌対策を検討していきたい。殺菌・消毒の際の乗務員への影響がないかも、あわせて調査していく」（根本社長）としている。

早ければ来月にも実証実験に着手。研究機関の FCG 総合研究所やシートカバーなどを手掛けるフクシンの協力を得ながら進め、タクシー車内の殺菌方法の確立とそれに要するコストや時間の検証、ドライバーに対する感染予防対策の実効性確認を調べていく。